水林下遺跡（第２次）

遺 跡 番 号　461-078
調 査 次 数　第２次
所　在　地　山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下地内
北緯・東経　39 度 06 分 19 秒・139 度 52 分 53 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起 因 事 業　日本海沿岸東北自動車道（遊佐象潟道路）
調 査 面 積　2,410㎡
受 託 期 間　令和３年４月１日～令和４年３月 31 日
現 地 調 査　令和３年６月 15 日～ 11 月 30 日
調査担当者　氏家信行（現場責任者）・大場正善
調 査 協 力　遊佐町教育委員会、遊佐町地域生活課、山形県教育庁庄内教育事務所
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　旧石器・縄文・奈良・平安・中世
遺　　構　掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱列・柱穴
遺　　物　石器・磨製石斧・縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器　（文化財認定箱数：11 箱）

遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

水林下遺跡は、県の北西端にある遊佐町女鹿集落に隣接し、約９万年前に鳥海山より噴出した大平溶岩により形成した、溶岩台地の西端部上に位置する。東には鳥海山を望み、西には日本海が拡がる。標高は 22 ～ 23 mを測る。遺跡が所在する場所は、鳥海国定公園域内にあたる。現在、遺跡周辺は杉の二次林が拡がっているが、1960 年代頃まで耕作地として利用されていた。

本年度は、第２次調査に当たる。調査は、まず昨年度の調査終了時にＣ区の遺構検出面上に敷いた保護シート、及びシート上の埋土の重機による除去から行った。その後、工程上Ｃ区を東・西・北に分けて未掘削部の重機による表土除去、及び手作業による面削りでの遺構検出、そして検出遺構の手掘りでの精査を行った。精査した遺構は、土層断面や平面、遺物出土状況などを写真、及び三次元解析で記録したうえで、完掘を行った。

遺構検出の結果、Ｃ区全体で多数の杭跡・柱穴、溝跡のほか、Ｃ区北より古代の竪穴建物跡２～３棟と、埋土に縄文時代中期の土器片を含む大型土坑とみられる遺構１基の存在が判明した。とくに、Ｃ区北は遺構分布が調査予定範囲からさらに東に延びることがわかった。そのため、国交省、及び県文化財振興・文化財活用課と協議し、Ｃ区北の東部を幅 6m 前後拡張し、表土掘削を行った。Ｃ区北については、本年度遺構検出までとし、それ以降の作業を次年度に行うこととなった。

昨年度の旧石器が確認されたＢ区に隣接するＣ区東では、遺構精査、及び記録作業が終了したのち、遺構検出面、すなわちローム層の掘り下げを行った。旧石器時代の調査は、昨年度と同様にグリッドに沿って２ｍ×２ｍを基本とする小区画を設定しながら、手掘りで丁寧に

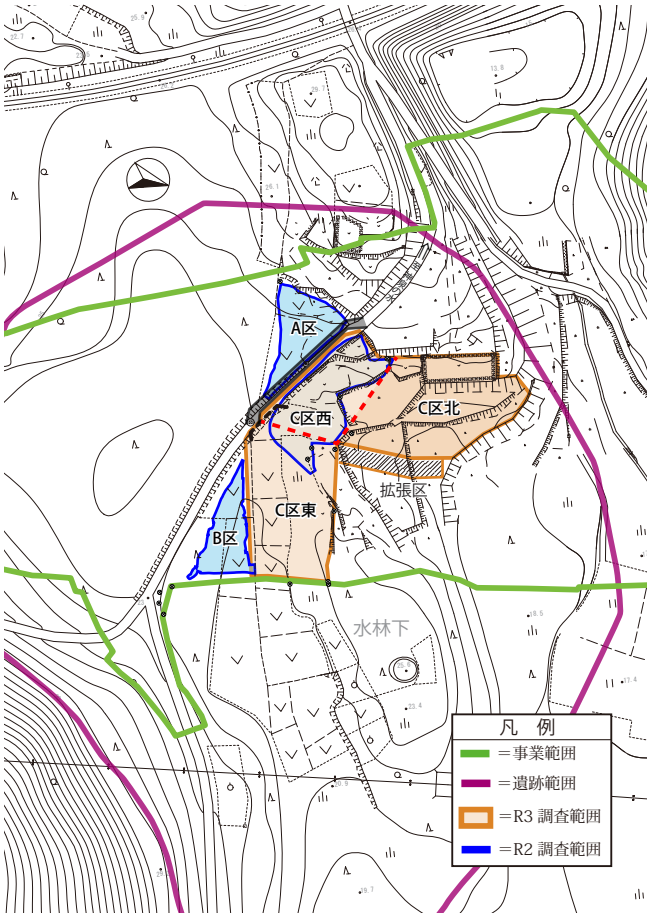

図１　調査区概要図（１：2,000）

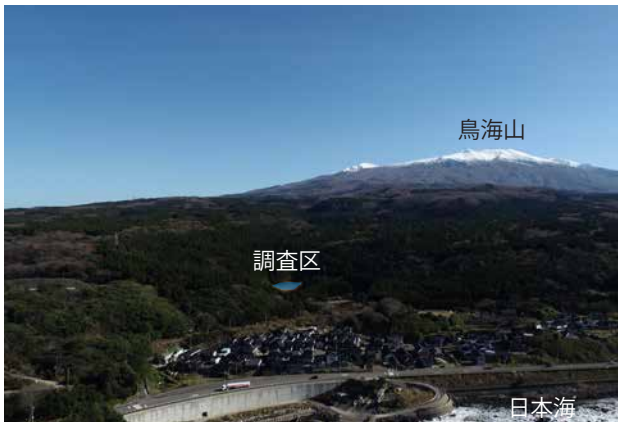

写真１　遺跡遠景（北西から）

写真２　作業状況

掘り下げて石器を検出していった、石器は全て出土地点を座標記録し、随時写真撮影を行い取り上げた。

遺構と遺物

今回の調査で見つかった主な遺構は、古代の竪穴建物跡、縄文時代の大型土坑、旧石器の石器集中部（石器ブロック）のほか、多数の杭・柱穴、溝跡等である。C 区北の古代の竪穴建物跡と縄文の大型土坑等の遺構については、次年度以降に詳細が明らかになるであろう。

縄文時代の遺物は、中期初頭に位置づけられる新保式土器の破片や地紋のみの破片ほか、石鏃や石匙が少量出土した。古代の遺物は、須恵器の甕や壺、土師器の坏や甕、製塩土器の破片が多量に出土した。また竪穴建物跡 ST701 からはカマドの支脚が、ST793 の北西角からは、完形の土師器・坏が天地逆転した状態で発見された。このほか、調査区全体で近世～近現代の陶磁器が出土した。

旧石器ついては、昨年度の B 区で発見された石器分布の北側の続きとともに、基本層序Ⅳ層下部からⅥ層にかけて、B 区の石器分布のさらに北東に拡がる新たな石器分布を確認した。そこで、B 区を中心とする約 8 m の範囲に拡がる石器分布を第 1 ブロックとし、C 区東の第 1 ブロックの北東に隣接し、８～ 10mの範囲に拡がる石器分布を第 2 ブロックと呼称する。

出土した旧石器の石器組成については、現在検討中であるが、台形石器、楔形石器、スクレイパー、ドリルのほか、石核、剥片、チップとなる。旧石器石材は、珪質頁岩、玉髄質頁岩、玉髄のほか、月山産と思われる黒耀石 1 点となる。

さらに、第 1・2 ブロックの中間付近からは、磨製石斧が発見された。この磨製石斧は、再加工等で著しく変形しているが、表面全体と裏面の中央部の一部に研磨面が認められる。今回発見された磨製石斧は、旧石器時代の発掘資料として県内初の事例となる。明治大学黒耀石研究センター・中村由克氏に鑑定を依頼したところ、北陸産の透閃石岩 D2 タイプであることが判明した。この D2 タイプの透閃石岩製磨製石斧は、秋田市地蔵田遺跡に次いで東北において 2 例目となる（透閃石岩製磨製石斧自体は、東北で 3 例目）。

まとめ

第 1 次調査出土の 4 点中 3 点の炭化物による炭素放射性炭素 14 年代測定（AMS）の較正年代では、信頼限界

（1 σ）が 68.27％で 3.5 ～ 3.38 万年前、信頼限界（2 σ）が 95.45％で 3.5 ～ 2.8 万年前の値が得られている。その年代値と石器群の組成や技術的な特徴から、水林下遺跡の石器群は、後期旧石器時代前半期の磨製石斧をともなう台形石器群として位置づけられる。出土した石器群、及び磨製石斧は、年代が明らかなものとして県内最古と言える。

今後の調査・整理において、後期旧石器時代前半期という早い段階で、鳥海山西麓においてヒトは何をしていたのかについて、明らかにしていきたい。　（

写真３　透閃石岩製磨製石斧の出土状況（北から）

写真４　SB793 の RP182 土師器・坏出土状況（東から）

写真５　ST701 検出状況（東から）

写真６　平安時代の須恵器（壺・甕）

写真７　平安時代の土師器（坏・甕・製塩土器）

写真８　縄文時代の土器と石器（深鉢・石鏃・石匙）

写真９　旧石器時代の石器（磨製石斧・楔形石器等）

図２　遺構配置図（1:500）

写真 10　第 1 ブロック石器出土状況

写真 11　楔形石器出土状況

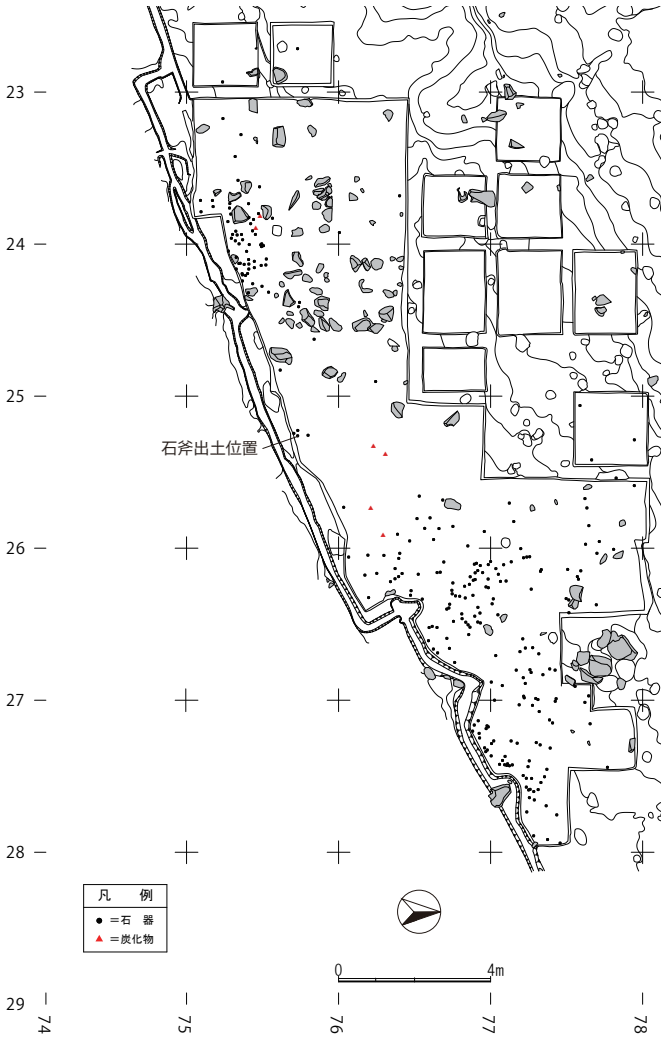

図３　旧石器分布図（1:200）